

低用量ナルトレキソン療法(LDN)

① 作用

ナルトレキソンは、モルヒネの作用を阻害する物質であるが、薬物依存症の治療に使う量の10分の1ぐらいの量の投与はかえってより多くのベータ・エンドルフィンやメチオニン・エンケファリンの生産を高め、それが免疫力を高めたり、がん細胞の増殖を抑制するように働く。

- ① ベーターエンドルフィン強い鎮痛作用・気分高揚・多幸感・抗ストレス作用をきたして神経障害を抑制し、リンパ球に働きかけて、免疫調節を行なう。
ベータエンドルフィンNK細胞やリンパ球にあるレセプターと結合して、免疫力を高める作用を持っている。
- ② メチオニン・エンケファリンは、がん細胞の増殖を抑制する。
また、LDNはがん細胞の核膜にあるメチオニン・エンケファリン受容体(レセプター)の量を増やす作用を持っており、これもがん細胞増殖抑制に働く。

② 用法・用量

3mg錠もしくは4.5mg錠を就寝前に内服する。

PM9時～AM3時の摂取が最適。
橋本病でチラージンS内服中の患者には1.5mgから開始する。

③ 副作用

最初の1週間程度のみ、不眠を訴えることあり。
長期間続くようであれば、投与量を4.5mg錠から3mg錠に変更する。